

# 学びのR

No. 4 (平成29年6月)  
埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

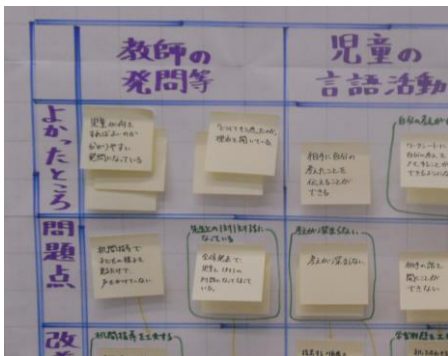
「R」は「Reform (改革)」の頭文字です

## \* ワークショップ型研修で授業改善 ② \*

### ワークショップ型研修

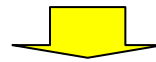
### その2 「マトリクス法」

\* マトリクスとは $n \times n$ の表のことです。授業分析の場合は、 $3 \times 3$ の表を用いることが多いです。



◇行の部分: 「成果やよかった点」、「疑問や問題点」、「改善点や手立て」など。

◇列の部分: 「教師の発問等」、「児童生徒の言語活動」、「学習への関心・意欲」、「共働的な活動」「その他」など



授業づくりや分析の視点があらかじめ決まっていると  
その視点を踏まえた分析をすることができます。

### 1 授業について色別の付箋に記入する。(各自) (1枚の付箋に1つの内容を書く。)

- 青色の付箋 → よかった点・取り入れたい点等を記入する。
- ピンクの付箋 → 課題と感じた点を記入する。
- 黄色の付箋 → 改善の手立てを記入する。

### 2 付箋を視点ごとに分類しながら協議する。(グループ)

- ・付箋を読み、補足しながら、模造紙の該当の欄に貼る。
- ① よかったところについて共通理解を図る。
- ② 課題と感じた点について話し合う。
- ③ 改善の手立てについて発表する。



付箋を該当するセルに置きながら話すので、時間の短縮もできます。構造化は、セルを越えて行うことが重要です。

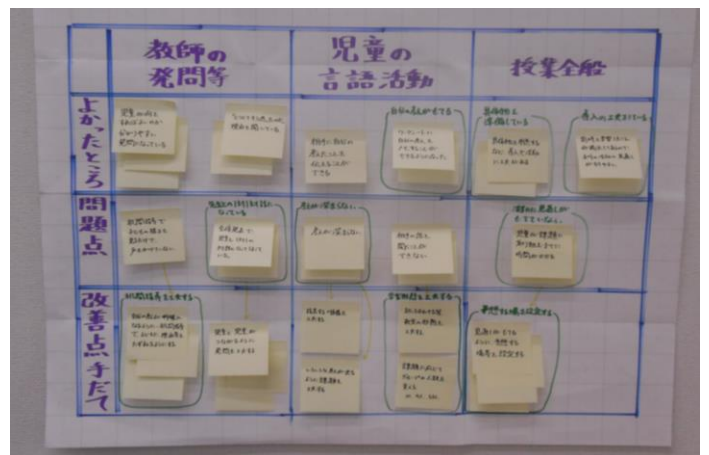
### 3 改善を図るためには、どのような手立てがよいのか話し合う。

※各グループで授業者に対する具体的な手立てを提案する。

マトリクス法による分析では、  
授業改善の視点がどこにあるの  
かが明確になります。



マトリクス法成果物



**Q1****実際に「ワークショップ型研修」を進める場合の時間配分は？**

A1 90分の研修時間を想定した「ワークショップ型研修」の展開モデルは以下の通りです。あくまで参考ですので、各学校の実態に合わせ、工夫してみてください。

時間	形態	内容	進め方のポイント
10分	全体	・研修の目的と方法を説明する。	★研修の進め方（プロセスイメージ）や成果物（ゴールイメージ）を具体的に伝える。
10分	個人	・各自が意見やアイデアを付箋に記入する。	★できるだけ具体的な文章で記述する。 ★付箋1枚に1項目を書く。 ★サインペンを使うことで、見やすく、文字数もある程度制限できる。
40分	グループ	・グループに分かれ、意見やアイデアを紹介し合い、模造紙の上で、整理・構造化を図る。	★書いた付箋の内容を紹介しながら、似たものや関連するものを出し合う。 ★小見出しをつけたり、因果関係や対立など関連するものを結んだりして構造化を図る。
15分	グループ ・全体	・各グループの成果を共有化する。 ・適宜、質疑を行う。	★各グループの成果を発表し、共通理解を図る。 ★必要に応じて、質疑や解説を行う。
10分	全体	・研修成果の確認を行う。	★授業改善ポイントについてまとめる。 ★授業者の振り返りをこの段階でするとよい。
5分	個人	・研修を振り返る。	★研修で学んだことを各自で書き記す。
	全体		★研修から見えた課題を明確にする。

**Q2****付箋に記入するタイミングは？**

A2 付箋に記入するタイミングは3パターンあります。①参観中に書く。②参観後、研究協議までの間に書く。③研究協議会の中で時間をとって書く。

**おすすめは、****③研究協議の中で書く**

- ・参観中は、学習指導案やノートなどにメモをしておく。
- ・付箋1枚に1項目を原則として記述する。

**メリット**

- ◎改めて付箋に記述する作業を通して、コメントの取捨選択ができる。
- ◎使用する付箋の枚数がある程度限定できる。
- ◎メモを見返し記述することで、概念整理が行われる。

